

社会貢献活動

世界各地で、
よりよい社会づくりに
貢献します。

自然と共生し、豊かな社会を創造していくためには、国・企業・市民団体・個人など、すべての地球市民が、お互いに示唆しあい、協力することが重要です。そのためには「企業」「行政」「市民(NPOなどを含む)」が、より深い対話関係を築く必要があります。正しい情報開示のもとに、コミュニケーションを図り、お互いの信頼関係を築き、良いパートナーシップで豊かな社会をつくっていくために、地域のリーダーシップを担う企業が、強く求められています。リコーグループは、「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」という三愛精神*に基づき、よりよい社会づくりに貢献するために、世界各地で行政や市民の方々とのコミュニケーションや積極的な働きかけを行っています。

* 9ページを参照。

インターナショナル

国連グローバルコンパクトへの参加

リコーは2002年4月8日、人権・労働・環境の3分野における9つの原則からなる「グローバルコンパクト(Global Compact:世界協約)」に賛同し、参加意思を表明しました。グローバルコンパクトは1999年、国連のアナン事務総長が世界のビジネスリーダーに対して提唱したもので、世界で約500社が参加しています。リコーは日本の企業の中では2番目に参加意思を表明し、リコーグループとして、よりよい国際化に貢献して行きます。

* <http://www.unglobalcompact.org>

地球温暖化防止へのリーダーシップ

2001年7月、京都議定書の発効に賛同する企業による署名運動「e-mission55」に、リコーは日本の大手製造業で最初に署名を行い、日本企業の賛同に道を開きました。これが評価され、欧州ビジネス評議会と米国ビジネス評議会から、リコーに「Climate is Business賞」が贈られました。この賞は、リコーと、COP6でボン合意を成立させたヤン・ブロンク議長(オランダ環境相)に贈られました。



「Climate is Business賞」
の受賞式とトロフィー

森林生態系保全プロジェクト

森林保全・復元の重要性
現代は、生物の大絶滅の時代と言われています。約4,000種類の哺乳類のうち、1,069種類が絶滅の危機に瀕していると言われ、たとえばパンダは約1,200頭しかいません。その原因は、生息地の減少にあります。地球上には、森林、サバンナ、湖沼、珊瑚礁、海洋など、さまざまな生息地があり、それぞれに特有な生き物の関係(生態系)が保たれています。生態系が壊れてしまえば、人類の生命維持に必要な、水・大気・気候・土壌などの自然も崩壊する危険性が極めて高くなります。私たち人類は、すべての生態系を保全する必要がありますが、リコーは、その中でも特に生物多様性の高い「森林生態系」に注目して、社会貢献活動を展開しています。

社会貢献積立金*より支援している活動

国名	プロジェクト		N P O		
	名称	特徴	名称	概要	ホームページ
フィリピン	ホットスポット地域の森林保全と復元	フィリピンワシの住める森を残す	コンサベーション・インターナショナル	32カ国、1,200名のスタッフが「生物多様性の保全」に資金と人材を集中させ、活動を展開。	http://www.conservation.or.jp
マレーシア	ECOREGION200地域の森林の復元	オランウータンの移動できる森作り	WWF	生態系の保全から温暖化防止まで、生物多様性の保全に幅広く取り組む、世界最大の自然保護NPO。	http://www.wwf.or.jp/ (WWFジャパン)
中国	ECOREGION200地域の森林の復元	パンダの移動できる森作り	WWF	同上	同上
日本	多摩丘陵さとやまの復元	ドジョウ・山椒魚の住める森を残す	日本野鳥の会	「野鳥も人も地球のなかま」を理念に、野鳥とその生息環境の保全活動を実施。	http://www.wbsj.org/
日本	長野黒姫アフアの森保全	ヤマメの住む森作り	財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団	「人と多様な生き物たちが共生できる森づくり」をテーマに、森林の生態学的調査や研究、保全活動を実施。	http://www.afanomori.com/

各プロジェクトの特徴には、その地域でのFLAG Species(象徴的な生物)を記しています。
プロジェクトはFLAG Speciesの保全だけでなく、その地域の森林生態系すべてを保存するために取り組んでいます。
* 右ページを参照。

会社経費より支援している活動

国名	プロジェクト内容	N P O		
		名称	概要	ホームページ
スリランカ	世界遺産地域の森林保全と復元	スリランカ野鳥鳥学グループ	スリランカにおける鳥類生態研究、野鳥を通じた国内外の自然保護活動を展開。	
ブルネイ	マングローブ原生林の保全	ラムサールセンター	アジアにおけるラムサール条約(国際湿地条約)の普及と湿地の賢明な利用の実現を目的に活動。	http://www.museum-japan.com/rcj/
マダガスカル	森林樹冠調査	プロナチュラ	アジア、アフリカなどで森林保護を中心に活動を展開する国際的NPO。	
バングラディッシュ	さとやまの復元	ポーシュ	バングラディッシュにおいて、特に子供を対象にした環境教育を展開。植林活動も実施。	
マレーシア	水源林の復元	オイスカ	アジア太平洋地域での農村開発、緑化活動などを通して、地域住民の自立と環境保全を目指す。	http://www.oisca.org
ガーナ	日陰で育つココア林を利用したコロドーの回復	コンサベーション・インターナショナル	32カ国、1,200名のスタッフが「生物多様性の保全」に資金と人材を集中させ、活動を展開。	http://www.conservation.or.jp

パートナーシップによる活動の展開

森林生態系の保全は、地元住民の方々の森林保全に対する理解と協力がなければ実現できません。そのためには環境教育が重要ですが、生活が困窮している地域では、循環型の森林利用、森林復元のための植林、森林管理などを通じて仕事を提供することも重要になります。こうしたことをふまえ、リコーは環境NPOとのパートナーシップのもとに、地元住民の方々に対するきめ細かな配慮をしながら、継続的に森林生態系保全プロジェクトを展開しています。1999～2000年度は8件、2001年度は3件のプロジェクトを新たにスタートさせました。日本の企業が、自分たちの国や地域の自然に注目していることを知ることによって、地元の人々がその重要性に気づき、意識改革が図られることも、大きな社会貢献につながります。一方、日本国内には、森林生態系保全の重要性を訴えるために、これらの活動を雑誌広告*で紹介しています。またNPO「緑の地球ネットワーク」の協力を得て、中国の黄土高原で植林を行うエコツアーを2002年4月に実施しました。

* 60ページを参照。



マングローブ原生林の保全(ブルネイ)



中国の黄土高原で植林を行うエコツアー

日本 極

継続的な社会貢献の推進

リコーは、継続的な社会貢献を実践するために「社会貢献積立金制度」を設け、株主総会での承認のもとに、毎年の利益から年間の配当金を差し引いた額の1%(2億円を上限とします)を、社会貢献のために積み立てています。2001年度は、「森林生態系の保全活動」や「市村自然塾」の設立・運営に活用されました。

青少年の健全育成(市村自然塾)

市村自然塾は、小学校4年生から中学校2年生を対象に、隔週末と夏期休暇に合宿し、自分たちの手で作物をつくり、自然体験や共同生活を通じて「生きる力を大地から学ぶ」ことを基本理念にしたNPOです。リコー三愛グループ創業者である市村清の生誕百周年を記念してプロジェクトがスタートし、2002年3月30日、「市村自然塾 関東」が開塾しました。また、2003年春には、市村清の生誕の地である佐賀県にも開塾する予定です。



「市村自然塾 関東」の入塾式

リコー・キッズ・ワークショップ

リコーは「新技術開発財団(市村財団)」が主催する「リコー・キッズ・ワークショップ」を全面的に支援しています。これは、小学4年生～中学3年生を対象に、実際にレーザープリンターやファクシミリを分解し、その原理やしぐみを楽しみながら理解する

イベントです。2001年度は、東京と青森で2回のリコー・キッズ・ワークショップが開催され、延べ135名の小中学生が参加しました。

* 新技術開発財団(市村財団)は、社会に貢献する技術や研究を表彰・助成することを目的に、リコーの創業者である市村清によって、1968年に設立されました。科学技術の開発、植物研究、青少年の創造性育成などに対する助成を行っています。

学校とのパートナーシップ

リコー福井事業所や御殿場事業所、リコーエレメックスでは近隣の児童や学生を招いての環境啓発活動を継続的に行っています。



リコーエレメックス岡崎事業所の活動



リコーエレメックス恵那事業所の活動

社会貢献クラブ・FreeWill

リコーは、社員の自由意思に基づく社会貢献活動を推進するために、1999年1月「社会貢献クラブ・FreeWill」を結成し、「骨髄バンク」「難民を助ける会」など60以上の団体を支援してきました。会員になった社員は、給与・賞与の端数を献金し、集まった資金を社会貢献に役立てる仕組みです。2002年2月末、会員数は2,000名を超えています。また、リコーも寄付額と同額を上乗せする「マッチングギフト制度」によってFreeWillの活動をバックアップしています。

日本 極

NPOとのパートナーシップ

リコーは、日本自然保護協会*¹や日本野鳥の会、WWFジャパン、緑の地球ネットワーク*²、日本生態系協会*³などへの寄付を行っているほか、WWFジャパンに地球温暖化防止ビジネスワークショップの会場を提供しています。

*1 <http://www.nacsj.or.jp>

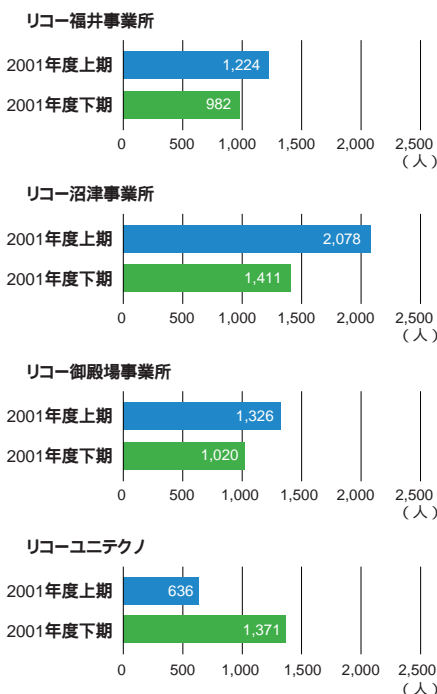
*2 <http://member.nifty.ne.jp/gentree/>

*3 <http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/>

企業や行政とのパートナーシップ

リコーグループは、全世界の生産事業所でごみゼロを達成しています。企業や行政の方々の見学受け入れなど、そのノウハウの開示も積極的に行っています。

主な生産事業所の見学受け入れ状況



環境ボランティアリーダーの養成

リコーグループは、企業として環境保全活動や社会貢献活動を行うことはもちろん、社員一人ひとりが自主的に社内外で活動を実践することが重要だと考えています。1999年6月からリコー社員を対象にした「環境ボランティアリーダー養成プログラム」をスタートさせ、2001年度にはリコーグループ社員および退職者を含むプログラムへと拡大しました。2001年度末までに142名のリーダーを養成しました。リーダーには役員も含まれています。プログラムは「リコー自然教室」と呼ばれる集合研修と「環境ボランティアリーダー全社会議」から構成されています。自然教室で研修を受けた後、各リーダーは、それぞれの所属する部署や地域を巻き込んで、環境ボランティア活動を展開します。活動を推進するための支援も、リコーが行います。

リコー自然教室

リコー自然教室は、自然の楽しみ方や、環境保全活動の実践方法を身に付けた「環境ボランティアリーダー」を養成することを目的としたプログラムです。毎回15名程度の希望者を対象に、2日間の研修



リコー自然教室 中級編(第1回)



リコー自然教室 初級編(第9回)

を行います。2001年度は、新たに「中級コース」を設定するとともに、3回のリコー自然教室を開催しました。環境NPO「日本野鳥の会」の方々に講師をお願いし、循環型社会のモデルであるさとやまの保全活動や、バードウォッチングを通じて自然保護活動について学んだほか、使用済み食用油を使ったエコ石鹸づくりや、さとやま保全のためのササ刈りなども体験しました。

環境ボランティアリーダー全社会議

環境ボランティアリーダー全社会議は、リーダーの活動のフォローアップを目的としたもので、リーダーが各自で主催した活動について報告し、リーダー同士の交流を深め、新しい知識を得て、活動の質を高めて行くための場です。2001年度はリーダーが増えたため、人数を分けて、4回の全社会議を開催しました。

環境ボランティアリーダーの活動

2001年度は28回の活動が行われ、延べ787人が参加しました。環境ボランティアリーダーは、友人や家族、それぞれの所属する部署や地域の人々と共に活動を行っていますが、リーダー同士がグループをつくって継続的な活動を展開することも増えてきました。「秦野雑木林を守る会」は、5人のリーダーが中心になって2000年11月から継続的な活動を行っています。「やどろき親睦会」は、2001年1月から神奈川県「かながわ水源の森林(もり)づくり」の活動に参加しています。また2001年11月からは、リコー中央研究所に所属する数名のリーダーが中心になり、研究所の隣にある「せせらぎ公園」内の古民家を定期的に維持管理する活動をスタートさせました。



秦野震生湖 雑木林保全

生き物たちが集まる雑木林の保全、自然観察、しいたけづくりなどの活動を、ほぼ毎月1回のペースで行っています。



大磯海岸クリーンアップ

神奈川県の大磯海岸清掃活動を行いました。見た目にはきれいな海水浴場ですが、ごみがたくさんあることが判りました。



せせらぎ公園 古民家周辺清掃

横浜市の公園にある古民家周辺の景観保全活動を2カ月に1回、定期的に行っています。



やどりき親睦会

神奈川県の水源地保全計画に協力して、ほぼ毎月1回、水源地保全、植林、自然観察などの活動を行っています。



たまがわ花火大会ごみ袋配布&クリーンアップ

ごみ袋を配布しながら、ごみの分別やポイ捨て禁止などを、たくさんの花火観客に呼びかけました。



厚木事業所クリーンアップ

厚木事業所の有志29名が、事業所付近の道路や公園、河原の清掃を行いました。



博多湾岸 松の植樹

松の生息状況、環境悪化の現状を学ぶと共に、博多湾の海岸に500本の松苗を植樹しました。



川・風フェスタ 鶴見川クリーンアップ

地元の環境NPO「みどり・川と風の会」主催のイベントに参加し、竹の風鈴づくりなどを子供たちに教えました。



大曽根の湿地 ピオトープを守る会

リコーユニテクノの社員有志が地元の「大曽根の湿地 ピオトープを守る会」に参加し、魚の調査・放流や、清掃などを行っています。



フェスタ・コスタ・デル・ゴミ in 千本浜

沼津市主催の海岸清掃に参加しました。リコーからの参加者全員が40リットル袋にいっぱいのごみを集めました。



サンドクラフト&鎌倉ビーチクリーンアップ

鎌倉市の海岸で、海岸の清掃とサンドクラフトづくりを行っています。参加者は、毎年増えています。



御殿場事業所の「ふるさとの森」

工場敷地内に、池や小川のある「ふるさとの森」を開設しました。オープン時には、地域の子どもたちと一緒に、メダカなどを放流しました。

アクセシビリティの向上 アメリカ・リコーコーポレーション

アメリカでは、「IT製品は障害者もアクセス(利用)しやすい商品またはサービスでなくてはならない」という法令(連邦法リハビリテーション法508条)が2001年6月に発効しました。リコーコーポレーションは、デジタル複合機Aficio 1045(imagio Neo 450)とファクシミリ5000Lのアクセシビリティに関する第三者評価を受け、製品のアクセシビリティの向上を図っています。また2001年8月には、リコーグループのアクセシビリティに関する考え方や活動をアピールするために、政府関連の方々を招待し、「アクセシビリティフォーラム」を開催しました。

ニューヨーク復旧の支援活動 リコーコーポレーション、リコービジネスシステムズ、セービン

ニューヨーク、マンハッタン近郊に本部を持つリコーコーポレーション、セービン、およびマンハッタンにオフィスを構えるリコービジネスシステムズは、9月11日の同時多発テロ事件の発生直後、社員の全員無事を確認するとともに、「家族の捜索を優先」「必要に応じてマンハッタンに取り残されたスタッフ等の避難場所として事務所を開放」など、行動のガイドラインを示しました。事件直後にFBI(Federal Bureau of Investigation: 米国連邦捜査局)や



ニューヨーク5番街のビル

FEMA(Federal Emergency Management Agency: 米国連邦緊急事態管理庁)から非常事態対応センターに指定された現場付近のジャビットセンターでは、9月12日からリコーの展示会が予定されていたため、準備していた複写機やプリンター、ファクシミリをFBI、ニューヨーク市警、赤十字、NY市長事務所などに提供しました。これらリコー製品は、事件による行方不明者捜索に必要な写真のカラーコピー、DNA鑑定に必要な書類のコピー、アメリカ国旗の大量印刷配布、WTC(World Trade Center)に事務所を構えていたOEM(Office of Emergency Management: ニューヨーク市非常事態管理室)がハドソン川埠頭に設置した緊急事務所でも使用されました。

11日以降も要請に応じて病院や事務所、救護センターなどに製品の輸送、設置を行いました。またワシントンのペンタゴン(国防総省)にもセービンが特別対応を行い、最終的に250~300台の製品をご利用いただきました。

ニューヨーク市の復旧に伴い、リコービジネスシステムズが使用している5番街のビルにアメリカ国旗を巻き付け、ニューヨーク市民をはじめ、この事件によって精神的打撃を受けた方々への支援を行いました。

行政との活動

アメリカ・REI

REI(Ricoh Electronics, Inc.)の複写サブライグループとサーマルメディアグループは、EPA(Environmental Protection Agency: 米国環境保護庁)の「国内環境実行計画」の参加者に選ばれました。「環境責任を果たすために組織的

に取り組んでいること、汚染を改善・予防するために新たな処置を行っていること、また良き企業市民として地域の環境保全のリーダーシップをとっている」ことが選定の理由です。



EPAの参加承認証を受けたREIの社員代表

清掃ボランティア活動

アメリカ・REI

2002年3月、REIの熱心なボランティア活動が評価され、「POLF(ポインツ・オブ・ライツ財団)」から、地域社会貢献賞を受賞しました。REIのカリフォルニア工場では、100名以上の社員が近隣の運河を清掃し、800ポンドのごみと700ポンドの再生可能な廃棄物を回収しました。ジョージア工場では、22名の社員が近隣の公園の清掃を行い、4,000ポンドのごみと再生可能な廃棄物を回収しました。



POLF創立者兼名誉会長のジョージ・ブッシュ・シニア元大統領とREIの社員代表



カリフォルニア工場近隣の運河の清掃



ジョージア工場近隣の公園の清掃

植林ボランティア活動

メキシコ・RIM

2001年7月、RIM (Ricoh Industrial de Mexico)の社員86名が、ネバド・デ・トルーカの森林復興プロジェクトに参加しました。トルーカ市の職員から緑の大切さと植樹方法の説明を受け、全員で1,400本の植樹を行いました。



森林復興プロジェクトでの植林

欧州極

環境社会貢献賞の受賞

オランダ・NRGベネルクス

リコーグループの販売会社であるNRGベネルクスは、オランダの評価会社であるKPMGからオランダの152社の中でナンバーワンの評価を受け、環境社会貢献賞を受賞しています。

地域社会との交流

イギリス・リコーUK

近所の幼稚園に、使用済みクリスマスカードやCD-ROMを寄付しています。クリスマスカードは絵を切り抜くことでハサミを使う練習に、CD-ROMはパーティなどの飾り付けの材料に利用されています。



寄付されるクリスマスカード



パーティの飾りになった使用済みCD-ROM

地域環境への貢献

イギリス・GRAM

スコットランドで印刷機リポートのインクなどを製造しているGRAM (Gestetner Ricoh Advanced Materials)は、2001年12月、地域の環境賞「VIBES AWARD」の東地区賞を受賞しました。高度な排水処理を行っていることなどが評価されました。

学校支援と雇用創出

リコーハンガリー

金銭的なサポートや製品提供などを通じた技術的サポートを通じて、近隣の技術学校を支援しています。卒業生を採用するケースもあります。サービス部門16名のうち、半数はこの学校の卒業生です。

中華極

チャリティウォーク

リコー香港

社員懇親会「Social Club」が中心になって、チャリティウォーク「Walk for Millions」に参加しています。社会貢献をさらに進めるため、身体障害者を雇っている会社でつくったリコーのロゴ入り帽子やウインドブレーカーを身に付けて、約200名の社員が参加しました。



Walk for Millionsに参加したリコー香港の社員

植林活動への参加と寄付

リコー香港

香港・西貢郊外の公園にある、山火事で焼けた山林の復興のために30万香港ドルを寄付するとともに、植林活動を

実施しました。3年間で10,000本を植林します。



植林活動に参加したリコー香港の社員

清掃ボランティア活動

台湾リコー

2001年6月1日、台湾リコーの創立記念日の行事のひとつとして、社員の提案で工場周辺約3kmの道路のごみ拾いを実施しました。69名の社員が「廃品回収の歌」を歌いながら161kgのごみを集めました。



工場周辺の清掃を行う台湾リコーの社員

アジア・パシフィック極

知的障害者支援団体への支援

リコーオーストラリア

リコーオーストラリアでは、2002年3月、チャリティゴルフを開催し、収益金を知的障害者支援NPO「The Sunnyfield Association」に寄付しました。この寄付金は、知的障害者のための職業訓練センターを設立するために使われます。リコーオーストラリアは、これまでに合計500,000豪ドルをこのNPOに寄付しています。



知的障害者のための職業訓練センターの起工式